

さ ざ ん か

第77号、2008年3月

また春が巡ってきました。別れと出逢いの季節をいくつ経験してきたことでしょう。経験の少ない子供達や若者には我々と比べるとずっと一つ一つの別れや出逢いに重みと意味があるのだと思います。20歳の80歳の春。それぞれの春とそれぞれの人生。今年はどんな別れや出逢いがまっているのでしょうか。

医療崩壊が叫ばれるなか、また当院にもその波が押し寄せてきました。一旦復活した脳神経外科ですが、4月から医師が2人から1人に減員になります。地域唯一の脳神経外科を標榜する病院として、住民の方々の期待にお応えすべく頑張ってきたのですが、時代の流れにはいかんともしがたく、皆様にもご迷惑をおかけすることになりそうです。もっとも恐れていることは、その波が一部の診療科のみでなく病院全体に及び、病院そのものの存続が危ぶまれる状況が訪れないかということです。医療界の最近のキーワードとなっている集約化という流れのなかでは、集約化して利益を得るのは医師が集約される都市部であり、その分切り捨てられる地方はたまったものではありませんが、この流れは当分止まりそうにありません。何とか、踏みとどまって良質の医療と小児医療、救急医療、へき地医療は確保していかなければならないと意を強くしているところですが、現実には予想以上に厳しいものだとの覚悟もまた必要なようです。嗚呼無情。

ところで今年はオリンピックイヤーですね。どんなドラマが待っているのでしょうか。個人的にはマラソンのQちゃんに頑張ってもらい、結果の出来不出来にかかわらず北京で引退するという状況を期待していたのですが。代表選手は、とりあえずは北京の大気汚染にめげずに身体を壊さずに帰ってくればそれでいいのかもしれないね。というくらい北京の大気汚染はひどいらしいけど、本当のところはどうなのでしょう。倫理のない資本主義の実験台みたいな現代中国でのオリンピック。環境重視時代における一つの試金石になることは確かでしょう。

俳句

西屋敷喜美子

温度差の 厳しき伊佐の 春の朝
 減反の 煙草団地や 朝がすみ
 俳友の 秀句届きぬ 春の風

病院からのお知らせ

- * 外来の採血開始時間は午前8時開始になっております。朝食抜きの採血があるときは早めに来院して採血をすませ、診察時間が来るまでのあいだにゆっくりと朝食を取っていただけたと思います。
- * 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。
骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。
骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- * MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。
- * MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- * マルチスライスCTで、心臓冠動脈造影もできます。心臓カテーテル検査の代わりにもなることもあります。遠方まで心臓カテーテル検査にいられる方は是非ご検討下さい。その他全身の血管撮影に威力を発揮します。人は血管と共に老いる、といえます。
MR血管撮影とあわせて利用できます。ご相談は各科の主治医にどうぞ。
心臓の冠動脈造影のときは1泊2日の予定でお考え下さい。
もちろん下肢の血管造影もCT、MRIを利用して可能です。
- * 一階売店近くのロビーに「創作ひばり会」の盆栽が展示してあります。日本人の粋を代表する芸術ですのでゆっくり「盆栽ワールド」をご堪能下さい。
- * 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- * 4月から脳神経外科の外来担当がかわります。詳しくは脳神経外科外来でお尋ねください。
- * そのほか、4月からは内科、外科などで一部医師の交替や県の人事異動にともなう職員の配置換えなどもあります。人の交替によりご迷惑をおかけしないつもりですが、何かお気づきのことがありましたら各投書箱へご意見をいただければ幸いです。

5 度目の入院 平城エミ

水族館の展示物の如き吾と思ふ高気圧酸素治療器の中
吾が眠り居る間も確実に変わりいる点滴筒は六時間ごと
リピーターと自嘲しながら床に臥すイレウスでの入院五度目となりぬ
点滴架に縋り漸く行きたりき廁への数歩吾には遠し
風のごと吾を看取りて去りて行く夜半の看護師足音もせず
何処が痛むともしれぬ身体をもてあまし目覚め居る夜半の病棟静か
病床の夜半を目覚めて浮かび来し歌書きとむる枕灯の下
嘗て行きし黄土高原思ひ出づ昨日も今日も黄砂来たれば
ヤオトンを見たりし地より来たりしか黄砂に昏き空を見上ぐる
治療器に絶え間なく酸素流れ来る音を聞きつつ暫しまどろむ
高気圧酸素治療器より仰ぐ空照り翳りして雲の流るる
寝たきりの吾には見えぬ朝より昏く黄砂の街を友云ふ
首の座になおる思ひに運ばるる検査室への長き廊下を
たじろがぬ積りの心揺れており検査始まる刻を待つ間を
医師の指示聞き取れるやと悩みをり難聴の吾検査待つ間を
MRI に耐えし時間の長かりき工事場の如き騒音の中
MRI 終わりにて苦情述べたつる怒れる吾が虚しくなりぬ
マニュアルのままの言葉の帰りきぬ患者と言うは寂しかりけり
血と心通い居る思い看護師の居る病室でほっと安らぐ

おくのほそ道

時吉 政江

芭蕉は寛永 21 年（1644 年）伊賀野（三重県上野市）に農民の家に生まれる。書いてみました。芭蕉が歩いたおくのほそ道。流れていく時間も人生もすべては時の旅のようなもの。そこには美しい自然や歴史の面影としていろいろな人との出会いと別れがあり、今も私たちの心を旅へと誘ってくれます。太陽は東から昇り天空の軌道をたどり、夕方西の空に沈む。太陽はいったん死に、翌朝また蘇りまた死んで行く。月もまた同じ。日も月も死と再生を無限に繰り返す。自然もそして人も生まれ変わる。

（波の間や 小貝にまじる 萩の塵）

（閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声）

四季の風に吹かれて、茨城県、福島県、宮城県、山形県、新潟県、富山県、石川県。（まゆはきを佛にして紅粉の花）日本海の海の風に吹かれて歩いた。本日は 300 年前、500 年前のさまざまな寺の美しいカラー写真をみて、風景もまた自分が旅しているような気持ちになって自分の足で歩いているようです。

私は紅花のはなしを書いてみることにします。旧暦 5 月半ば、芭蕉は花盛りの尾花沢に 10 日間滞在している。梅雨空の下、見渡す限り咲き競う紅花畑。農家の庭先にところ狭しと並ぶ赤い紅餅。京都まで名の聞こえた最上紅花の風景はさぞ芭蕉を喜ばせたことだろう。芭蕉の故郷伊賀も紅花の産地。どこか懐かしい光景だったかもしれない。当時、紅染めの原料になる紅餅は米の百倍もの値段で取引され、貴族や大名など特権階級の衣装や口紅として珍重されたという。最上川流域の紅餅の生産高は全国一。大石田の川港へ集められ、最上川の舟運で酒田へ、さらに北前船で京都へ運ばれた。

紅花商人は莫大な富を得て、紅花大尽とも呼ばれ、京風文化をいち早く取り入れたという芭蕉を迎えた。鈴木清風もその一人だった。摘み取るのは赤い花だけでなく黄色い花もだ。花を干しただけでは紅の染料にはならない。この花のどこにあの紅色が秘められているのだろう。紅花には鋭い棘があって指を刺す。早朝、朝露や朝霧で棘がまだ柔らかいうちに摘んでしまう。花びらを水に浸けて黄色い色系をすべて洗い流し、日陰に寝かせて発酵させる。これを桶に入れ足でよく踏み煎餅のように平らにして筵に並べて天日で紅餅に仕上げる。（地元で花といえば紅花です。発酵させることを花寝かせ干す、筵を花筵、紅餅は紅餅です。花笠音頭の花笠は筵に花餅が並ぶ様子なんです）

紅餅 300 個で口紅がたった 1 グラムの貴婦人を飾る紅の価は純金に等しかったという。（行く末には誰がふれむ紅の花）2008 年になっても地図では日本列島は小さいが芭蕉のよ

うに人生は学校であり、旅である。芭蕉のように磯浜の海の音を伊佐平野の人は聞くことがない。

俳句

本石明子

春の花いだきて嬉し友来る

吹く風のほほに優しくふきのとう

死を見つめ我が越し道を北風（かぜ）に問う

100 オバアさん

宮園辰夫

先日新聞を見ていたら 100 オババアの達者の秘訣と云う見出しで色々書いてあった。明治 37 年生まれで 99 才。親の出生届が一年おくれたため、本当は 100 才なんだけど、という話であった。竜泉という所に、埼玉の、田舎から八百屋に嫁いできてずーっと働いている。今では世の中が変わってビルになり「コンビニエンスストア」等に変身。ご主人が亡くなった後もずっと小さな八百屋をやっていたそう。

客が来れば「いらっしゃいませ」と店先に出て、レジで袋詰めもしている。最近まで売り上げの計算までやっていたそうだが、消費税がどうやら面倒でやめた。レジを打っていた頃、毎日の現金の集計が足りない。どうもおかしいとよく調べて見たら、はんぱな分はまけちゃっていた。530 円だとすると 30 円はいいからなんて 500 円しかもらわなかったんだ。息子もいいよ、いいよ、近所の人にはずいぶん世話になっているから、せっかく買いに来てくれたんだからそれでいいんだよ・・・と怒らない。又シャレているんだ。

趣味は競馬。何番と何番と買って来て貰うんだって。所がそれがよく当たるんだ。昨日なんか 1-4 で当たって取ったんだよ。商売でははんぱをまけてやったのは、こっちの方で取ってんだ。そばに子供の孫も、その嫁もいるが、みんな何事も、おばあちゃんにあれはああだよ、ここはこうした方が良くかなと聞くんだ。要するにおばあさんは商売もなんでも主役で真ん中にある存在なんだ。100 才になっても袋詰めして手を動かす。競馬もやるから新聞読んで一生懸命勉強する。年寄りには端っこにいなさいじゃなく、真ん中において、話しかけたり、話をよく聞いてあげる。これは誰でも年をとったら、このようになりたいという手本である。おばあちゃん達者で益々頑張れよ。若い者に負けんじやないぞ。100 オバアさんの達者の秘訣と言うか、うらやましい。

短歌

入来峠 登れば近き桜島 煙あきらかに雲より高し
噴煙の絶えてひと時安らけし桜島は冬の日集めて光る

さつま狂句

早よ死^{わかれ}別^{かた}墓^み石^{いし}語^{かた}ち^み涙^{なみ}んだで手を合せ

年^{とし}寄^よもん覚^さえもせんパソコン買^かち

==== 崩壊、崩壊、崩壊 ==== カラーマン（とその女）

先日、立去り型サボタージュとそれに伴う医療崩壊について考えたのだが、そのなかでふと気がついたことがある。それは医療崩壊というのは、よくよく考えてみれば、最近の日本社会の中では一番最後に来た新しい崩壊現象のひとつに過ぎないということだ。農業、家族、教育、そして最近では年金制度など殆どの分野ですでにそれらの崩壊が叫ばれて久しい。（そういえばそうだねえ。ジャパンアズナンバーワンなんて言われてた頃が、今思うと華だったわねえ。バブル経済に浮かれていたものねえ。三菱がアメリカのロックフェラービルを買ったりしてね。ついでにひんしゆくも買ったりしてたわねえ）

農業は3ちゃん農業（じいちゃん、ばあちゃん、かあちゃんの3ちゃんだったわね）といわれた頃からすでに崩壊の兆しははじまり、現在は農業従事者の半数以上は65歳以上の高齢者であるらしい。（サラリーマンとか公務員は60歳で定年退職するのがふつうなのに。団塊の世代は退職金貰って、働き尽くめの人生に代わる新しい人生を楽しもうとしている人が多いというのに、高齢の農業者てかわいそうだわ）

崩壊させた農業の行きついた先が、今回の中国産ギョーザにみる農業騒動ではないだろうか。ひたすら安いものを求め、効率を求めた結果である。食糧自給率のダントツの低さは、先進国のなかでも群を抜いている。効率一辺倒のアホ評論家は、食糧は多くの国と仲良くすることでその供給は保障されると言っている。効率の悪い日本の農業にお金をかけるより、外国から食糧をたくさん買って、日本の車やテレビを沢山買ってもらったほうがみんな幸せになると言っている。

それはそうかもしれないし、そうなのであろうと、思う。

ただ、この「みんな」のなかには農業者が入っていないことは確かだ。「みんな」の大多数は大企業の経営者と株主とその従業員であることも間違いなさそうだ。値段は高いけど、

日本の農業を守るため日本の野菜や米を積極的に購入して食べようという主張をしたマスコミはいただろうか。

補助金を貰う農家を白い目で見、高くて効率の悪い農業を非難してきたのは一体誰なのであろうか。私たちひとりひとは日本の農業を守る、という意識はもってきたであろうか。少しでも安い牛肉や野菜に飛びついたのはじつは私たちと私たちに媚びるマスコミだったのではないだろうか

(農業というか食物は私たちが生きるための根本なのにね。いくらお金があっても農業者が食べ物を供給しなければ、つまり、食べ物そのものがなければお金はただの紙くずだということに気がつかないのかしら。先の戦争直後の食糧難を経験したことがある国民のすることとは思えないほど、農業を大事にしない国民になってしまったわねえ)

家族崩壊も言われて久しい。農業崩壊に伴う都市への労働者の移動により、核家族化は進行した。子供達は都会に出てそこで生活の基盤を築き、田舎に残っているのは老夫婦もしくは老人の単身世帯である。(最近に限界集落でいって、部落そのものが消滅しはじめているって聞いたりもするわ)。田舎に働き場所や大学がないので若者は今も都会に出る。そして老夫婦のみならず中年世帯もほぼ夫婦二人暮らしであることが多い。(4組に1組くらいが離婚しているのも案外その辺も理由のひとつかもしれないわねえ)

個人主義の浸透で両親と同居を嫌う人が増えたり、敗戦後の家長制度の崩壊もその一因であろう。

教育。校内暴力の嵐が吹き荒れたこともあった。夜中に校舎の窓ガラスを割って回るといふ尾崎豊の歌(卒業)が若者に共感を持って受け入れられた時代もあった。(でも、尾崎豊ってカッコ良かったわ。今もあたしの心の中で彼は生きているわよ。)いじめがいつの間にか顕在化して多くの子供達がいじめを苦にして自らの命を絶ったりもした。一方で、サカキバラ事件の犯人が中学生であったのも衝撃的であった。

教師の行き過ぎた体罰の結果として、体罰そのものがすべて禁止され、今度は教師が萎縮し生徒が増長した。(一部の患者が権利ばかりを主張してすぐ医者を訴えようとするからお医者さんが萎縮して、あえて患者さんのために何かをしようとするのを止める萎縮医療と同じことだわね。)権利を主張することがもてはやされ、いまやモンスターペアレントの出現をきたした。給食費を払わない親が増え、子供の成績が悪いのは先生の教え方が悪いと平気で教師を詰る。小学生が授業中に勝手に席を離れて行動しても、それを止められない学級崩壊が話題になったのももう数年前である。(そういう教育を受けてきた人間が社会人になっているから、ますます世の中は変な方向に進んでいるのでしょう)

そして現在着々と進行中なのが、医療崩壊と共に福祉の大きな柱である年金崩壊である。多分、国民年金のみの話しと思っている公務員やマスコミの社員や大企業の社員は身近な問題としては考えてないのかもしれない。だが、人の痛みを自分の痛みとして感じる事ができなくなってきている国民の将来はあやうい。(だいたい、マスコミの人って公務員の給料が高い！といいながら自分達はその倍近い給料を貰っているんだものね。なんかずるいわ)

崩壊、崩壊、崩壊。このままで我が愛するニッポンはどうなるのだろうか。何かよい方法はないのだろうか。良い知恵はないのだろうか。このままみすみす墮落し、落ちぶれていくようなニッポン民族ではないはずだったのに。

(まあ、まあ。そう悲観的ならなくてもいいわよ。世界に冠たる文明を作り上げた鎖国以前のニッポンは素晴らしいものだったわ。世界最古の小説家は紫式部なのよ。鎖国をやめたあとも、篤姫の時代には世界の仲間入りをするためにやれ尊王攘夷だの開国だの大騒ぎしながらも明治維新をなしとげ、中国文明を取り入れ日本化したように、西洋文明を取り入れ和風化しながら前につきすすみ、アメリカ、イギリス、ソ連、中国相手に戦争をして見事に破れ、空前絶後の空襲による都市の壊滅的破壊と人類史上初の原子爆弾を落とされるといふ代償も払いながらも奇跡の復興をとげたあたしたちニッポン人。なんとかなるわよ。きっと)

そ、そうだな。楽観的に考えれば、何とかかなりそうだなあ。なるんだろかなあ。なって欲しいなあ。出来たら俺が生きている間にステキなニッポン国になってくれないかなあと思うけど、それは無理だろうなあ。

(農業、教育、医療、年金は実は崩壊させてはならない大事なものと政治家やマスコミが気づけばだけど、それにはまだまだ時間はかかりそうだから、何とか次か次の世代くらいまで待たないとむりでしょうね。あたしたちは千の風になって明日のニッポンの子供や若者たちを見守るしかなさそうね！)

編集後記

昨今明るい話題はあまりないような気がするけど、それはもしかしたら自らの姿勢の問題かもしれません。環境のせいばかりにして愚痴ばかり言っている人間は意外と見苦しい。厳しい環境だからこそ、明るく前向きに生きていく、というのが正しい選択。なのでしょうか、別の正しい選択があるとしたとき、それは誰が教えてくれるのでしょうか (KT)
